

ボランティア養成研修会

令和4年6月4日（土）～6月5日（日） 1泊2日

○目的

青少年の体験活動を支援するボランティアに求められる知識・技能を習得するとともに、ボランティア活動の意欲を高める。

○参加者（対象及び内訳）

対象：自然体験活動やボランティア活動に興味・関心のある
高校生、大学生、社会人

参加者：計23名（内訳：男性12名、女性11名）
（高校生：7名、大学生：16名）

○事業の内容

（1）「交流の家について知ろう！」

（科目：青少年教育施設の現状と運営）

国立中央青少年交流の家次長 水澤 豊子

青少年教育施設の教育機能や、役割、取組について学んだ後、国立中央青少年交流の家の成り立ちや当機構の様々な事業について知り、活動場所についての理解を深めた。



（2）「アイスブレイクを体験しよう！」

事業推進係（兼）企画指導専門職付 小林 昌博

アイスブレイクゲームを行い、参加者の心身の緊張をほぐした。その後、アイスブレイクの意義などの説明を行い、アイスブレイクの理解を深めた。



（3）「ボランティアってなんだろう」

（科目：ボランティア活動の意義）

事業推進係（兼）企画指導専門職付 小林 昌博

ボランティア活動の社会的意義や役割、実際にボランティア活動を行う上での心構えについて学び、「ボランティア」についての理解を深めた。



（4）「自然で遊んでみよう！」

（科目：ボランティア活動の技術）

事業推進係（兼）企画指導専門職付 小林 昌博

屋外にて、「自然と自然に触れ合える」というテーマのアクティビティを実体験した。参加者は童心に帰り、自然を使った“遊び”を満喫している様子だった。



(5)「野外炊事をやってみよう！」

(科目：ボランティア活動の技術)

事業推進係 柴谷 紗良

実際に子供たちと野外炊事を行った場合に起こりうるリスクを想定しながらカレーづくりを行うことで実際に子供を支援する視点に立って活動することができた。



(6)「子供たちの安全を守る知識を身につけよう！」

(科目：安全管理)

大東文化大学 スポーツ・健康学部 教授 中村 正雄 氏

ボランティア活動中に起こりうるリスクについて学んだ後、AEDを使用した心肺蘇生法のトレーニングや、異物除去法について演習形式で学んだ。



(7)「青少年の“今”を知ろう！」

(科目：青少年教育)

國學院大学 人間開発学部 准教授 青木 康太郎 氏

講義の中で、「青少年」の定義や「青少年教育」の目指すゴールを学んだ後、今の青少年の体験事情についてグラフデータを用いながら学んだ。



(8)「交流の家のボランティアについて知ろう」

(科目：青少年教育施設におけるボランティア活動)

当施設法人ボランティア 黒田 美里
山下 俊哉

当施設での活動4年目を迎える先輩ボランティア2名が「中央でボランティアをして得たもの」をテーマに講話を行った。参加者は年の近い先輩の実体験を聞いて、今後の自分のボランティア像を考えていく機会となった。



《参加者の感想》

- ・様々な活動を通して、ボランティアとはどういうものかということ詳しく調べたいと思った。学びの中に楽しさがあったのでとてもよく、貴重な時間だった。
- ・今後の自分の展望を見つめる機会になったし、人と関わる重要性を初めて体感することができた。また、自分の学びがとても力になったと感じたので、今後活かしていきたい。

《成果と課題》

- あえてプログラム間の時間に余裕を持たずテンポよく運営することで参加者相互に時間に対する意識が生まれ、実際にボランティアとして活躍する際の「時間管理」の意識づけを行うことができた。
- 登録ボランティアの主体的な夜間プログラムとして「ボランティア交流会」の時間を長く確保することで、参加者同士のみならず先輩ボランティアとも深くかかわる時間を多くとることができた。
- 多くの登録ボランティアに活動機会を提供できるよう、教育事業以外でもボランティアの活動の場を工夫する必要がある。